
編集後記

早いもので2003年も余すところわずかとなりました。年々、透析医療を取り囲む環境は厳しくなる一方であり、限られた医療資源をいかに活用すべきかを考えるうえからも日本透析医会の役割は一段と重要になってきたのではと考えます。なかでも会員に種々情報を伝達すべく広報委員会の責務は大きく、日本透析医会雑誌の編集にあたっては、委員一同毎回誠意検討を重ねているところであります。

さて本号も多くの著名な先生方より玉校を頂戴いたしました。巻頭言では本会副会長の吉田豊彦先生より切迫している「透析医療費について」と題して意味深い御意見を賜ることができました。保険審査、医療経済の項では第8回透析保険審査委員懇談会の報告が詳細に掲載されるとともに「透析医療はどこへ向かうのか」との難問に対して大平整爾先生ならではの貴重なお考えを伺うことができました。医療安全対策の項では地震対策、SARS対策、安全管理対策について武田稔男先生、本会会長の山崎親雄先生、渡邊有三先生に寄稿して頂きました。いずれも時期を得た素晴らしい内容であり、会員の日常診療の参考になるものと確信しております。臨床と研究の項では透析患者の視覚障害、閉塞性動脈硬化症、脳血管障害、さらには将来の医療に向けて腎臓再生について取り上げさせて頂きました。その分野のエキスパートの先生によるわかりやすい解説であり、小生も知識の整理に活用させて頂きました。また日本透析医会研修委員会の役割である各支部における特別講演、研究助成についての論文も会員にとって有意義な内容であると思われます。各支部だよりは本誌のユニークな項目の1つではありますが、今回は長崎県、岩手県、福岡県からたよりを寄せて頂きました。それぞれの県の活動状況が手に取るように理解できますので、楽しく読んで頂ければと思います。以上、本号も諸問題に対応すべく読みがいのある内容にできあがったのではとほっとしているところであります。

最後に御多忙にもかかわらず、御寄稿頂きました諸先生方に心中よりお礼申し上げますとともに、会員の皆様にとりまして来る2004年が素晴らしい年になりますことを祈念申し上げ、編集後記とさせて頂きます。

頼岡徳在